

# すずらん

発行日：2007年9月28日

発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 大長 義信

相模原市麻溝台7-1-7 TEL 042-749-8881

URL <http://www.suzuran.or.jp> E-mail [kouhou@suzuran.or.jp](mailto:kouhou@suzuran.or.jp)

⇒「すずらん」へのご意見・ご要望・ご感想などありましたら、ぜひ電話、メールを送ってください。

## 【すずらん25号目次】

P1 《特集》自主製品を考える～第2回～ タートルの取組み 仕事に就く

P2 障害者自立支援法事業に移行して

P3 フェスタすずらん2007報告 作品展に出展しました

P4 すずらん通信講座 広げよう職員のわっ イベントのお知らせ ご寄付をいただきました 編集後記



## 特集!

## 自主製品を考える 第2回

## 地域活動センター タートルの取組み

地域活動センタータートルには法人内で最重度の障害がある方が多く通所しています（利用者15名）。タートルに着任しマーブリングされた和紙で作った祝儀袋・ポチ袋・封筒等の製品を見た時は、歴代の職員の発想とアイディアに脱帽し、ここに至るまでの苦労は大変なものだったろうと思いました。



マーブリング液に和紙を浮かべ、模様を写します。

しかし、現在のタートルの事業収入を支えているのは自主製品販売ではなく、ねじの袋入れ等の企業からの受注作業です。それは在籍者に毎月3,000円の給料を支払おうとすると、財源45,000円の確保は必須で1袋100円のポチ袋ならば毎月450枚売り上げなければなりません。100円ショップに行けば何でも揃う現在においては無理な話です。又、どこに出しても恥ずかしくない製品にしたいと思うならば、作成途中で利用者が関わる部分はマーブリング液を作り和紙を落とす段階です。和紙が乾いてからのはさみ使いと、のり付け作業は職員の仕事になります。日々の仕事の中で少しずつ進めているので一度に大量の製品作成には限界があります。

(次頁へつづく)

仕事に就く

私は法人設立以来、障害のある人達が仕事に就くと言うことに力を入れてやってきました。施設内外でOJTにより仕事を通じて社会的自立を目指す訓練を受け、力の付いた多くの人達は一般企業への就労を果たしてきました。その力が付く迄の間は施設内で訓練を兼ねた仕事をしながら何がしかの収入を得ています。障害者福祉の制度がめまぐるしく変わる中で、私達の手掛けた仕事に関わる部分が新しい制度の中に組み込まれましたが、永年私達の培ってきた就労に向けた仕組みと上手くマッチしない事が多く頭を悩ませているのです。例えば就労に一番近いところにいる人達の場合、ここで支援を受けられる期間は2年間とされました。が、私達はこれを最長5年間ですっとやってきました。

1～2年で就労の力が付いて就労できる人達もいますが、多くの人はそれ以上、5年間努力しても難しいケースの人も多いのが実情です。どうしてこうなのが良く考えなければならないが、ひとつには企業側のハードルの高さの問題があると考えています。私達の周囲には障害者が仕事に非常に理解のある企業が多く昔から助けられていますが、一般的には障害者雇用率の現実数値に見られるように、まだまだ障害者の雇用には企業側の意識と理解の少なさが大きな原因になっています。訓練を受け持つ私達の更大的な力と企業側の意識改革が求められると言えています。

理事長 大長 義信

特集!  
つづき

## 自主製品を育てる 第2回

### 地域活動センター タートルの取組み

(前頁よりつづき)

ねじ作業が途切れた時にマーブリングがあれば利用者の仕事がなくなる訳ではないので心強いと思った時もありましたが、それは皆さんに渡せる給与の財源が確保されている場合の事なのだと気付きました。

では、この先どうしたら良いかと考えていくと、販路の確保も重要なのだと思います。現在タートル製品が購入できる場所は、直接購入・ともしひショップ・バザーです。先日職員で話し合った所、『空港の売店に置いてもらったら外国の方が土産にしてくれるのではないかだろうか?』、『ホテルのフロントに祝儀袋とポチ袋を置いてもらったらどうだろう。』という案がでました。

私も時々、有名文具店を覗いては、タートル製品は決してひけをとらないと思います。ならば空港もホテルも文具店も売り込みに行ってみよう、と思いながら、はた・・・と考えます。日々3~4名の職員で利用者支援にあたりながら、いつ、誰が、営業に行けるのだろうか?と試行錯誤は続きます。

色とりどりのご祝儀袋とポチ袋です。

(タートル所長 梅川)



### 障害者自立支援法事業に移行して

平成18年度からの報酬の日額化と順調な移行支援実績に伴う収入の大幅な減少により、5年の通過施設として一般就労移行を中心とした支援を行う知的障害者通所授産施設(定員60名)の運営が成り立たなくなつたため、平成19年4月1日より、障害者自立支援法の事業である就労移行支援事業(定員50名)と新卒者受入のための生活訓練事業(定員10名)に移行しました。

全国的にも稀と思われる就労移行支援体制加算(前年度の定員の20%以上の一般就労実績により加算)を受けていますが、この加算は基本単価の4%弱程度と僅かな金額で、就労実績による収入減の補填には何の役にも立ちません。

今年度当初の新卒者受入予定者数15名が、神奈川県全体の一般就労強化策により養護学校等からの就職が促進されたこと等から7名に半減し、利用者の就職も例年に無く順調に推移しています。その結果、収入も漸減しています。目的とする移行支援の実績が上がれば上がるほど運営が苦しくなるということです。通常の施設を運営している方々からすれば想像がつかないかもしれません、毎年新規利用者を20~30名確保しても定員が埋まらないという現状があります。

以上のような様々な課題を克服し、法人理念の大きな柱の一つである一般就労支援を、さらに発展させていかなければと思うこの頃です。

自立支援法は、結果的に国の財政事情を反映して、障害福祉を利用する側と提供する側双方に大きな犠牲を求めるものとなっています。

制度は利用する側の充足度で評価されるものと思いますが、事業者の犠牲の基で成り立つものであれば、サービスは低下するでしょうし、利用者と事業所との対等な関係の構築も幻となってしまうのではないかでしょうか。

(ワークショップ・フレンド施設長 松屋)

# フェスタすずらん2007

密着リポート!



♪「秋桜」の皆さんです。



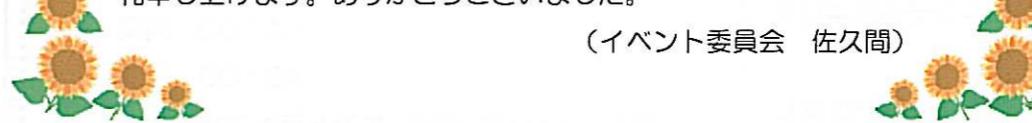
★自主製品の販売、力が入ります。



♪新鮮野菜は完売でした。



☆暑い、熱い、冷えた飲み物は大盛況でした!



(イベント委員会 佐久間)



♪焼きそば、いかがですか~!



★「Jam Cucumber」の演奏に、皆さんノリノリでした。



★「WAKUWAKU」の皆さんのソウルフルな歌声が響きます。



♪麻溝台高校バトン部の皆さんの華麗なるチアリーディング!



☆今年の司会は、このお三方でした!



♪そ、総合施設長・・・。

### 作品展に出品しました!

第32回相模原地区障害児・者作品写真展が8月24~26日ジャスコ相模原店にて行われ、グリーンハウスの利用者の作品を出品しました。

日ごろ作業面での評価を受ける機会は多いですが、特技・趣味を発表し評価をうける機会は少ないのではないか、ということから今回の出品につながりました。サークル活動で描いた絵や、趣味で撮影した電車の写真、刺し子、ログハウスで使用している看板などを展示しました。今後もいろいろな頑張り方のひとつとして、利用者のみなさんにはこのような活動への積極的な参加を呼びかけていきたいと思います。

(グリーンハウス 河合)



作品展の様子です。

# すずらんの会通信講座

今回は、「インシデント・プロセス法」とそれを用いて行っているケース検討会についてお伝えします。

「インシデント・プロセス法」は、事前の準備がいらないこと、参加者全員が主体的な参加を求められることがメリットある方法です。次のように行います。

## <インシデント・プロセス法で行うケース検討会>

- ① 事例提供者が簡単にケースの概要を話します。
- ② 参加者が順番に質問してケースについての情報を集めます。自分が担当者であると想定して必要な情報を集めます。情報収集のプロセスもトレーニングです。
- ③ 続いて、対応についてアイディアを出し合います。順番に述べていったり、自由に討議したりします。今回は、5、6人ずつの小グループに別れ、自由に討議し、最後に全体でグループごとに発表という形式をとります。
- ④ まとめ

すずらんの会研修委員会では、今年度、従来の研修会に加え、「自主研修会」を立ち上げました。2ヶ月に1回、定期的に開催し、テーマはケース検討会を基本に、参加者がその時学びたいことを学ぶ、という方針です。

ケース検討会というと、事例提供者が事前に資料を作成して…ということが多いですが、日増しに増えている業務量の中で、研修が後回しになってしまわないよう、先に記載した“インシデント・プロセス法”という方法を導入しました。

これから、身軽に、気軽に、いろいろなことに取り組み、楽しみながら学んでいきたいと思っています。

(研修委員会 斎藤)

## ～ご寄付をいただきました～

- ・住友スリーエム  
労働組合相模原支部 様
- ・すずらんの会後援会 様
- ・すずらんの会父母会 様

この場を借りて、感謝申し上げます。ありがとうございました。

すずらんの会後援会では、会員・賛助会員を募集しています。

問い合わせ先  
〒228-0828  
神奈川県相模原市  
麻溝台7-1-7  
すずらんの会  
グリーンハウス内

すずらんの会後援会  
042-749-8881

すずらんの会職員を紹介していく「広げよう職員のわっ！」の第6回。第5回に登場した竹村さんが、この方を紹介します。

## 広げよう職員のわっ！

私、グリーンハウスの竹村が紹介しますのは、「フレンド」職員でもあり、「ばれっと」で療育相談にも携わる斎藤優子さんです。臨床心理士である斎藤さんは専門的な視点での確かなアドバイスをしてくれるため、あちこちから引っ張りダコ！ますます様々な輪が広がっていくのではないかでしょうか。すずらんの会の頼りになる存在です。

(グリーンハウス 竹村)

すずらん

お知らせ！

2007 Salon Concert

## 出演/テルタ ストリート 他

(在日米陸軍軍楽隊の有志の方達で結成)

日時：10月20日（土） 13:30 開場

14:00 開演

16:00 終演

場所：富士見小学校 エントランスホール

(相模原市富士見2-4-1)

※駐車場はありません。巡回バスを運行します。

♪♪皆様のご来場をお待ちいたしております♪♪

## 編集後記

自主製品〈タートルの取組み〉については、自主製品をお金に繋げていくことの難しさを痛感させられる内容でした。

利用者への給与支払いを含め課題が多くあるようですが、この記事を書いていただいたことが取組み再構築のきっかけになれば幸いです。

(花暖 池田)

日々の仕事に追われ、自分の所属するエリアのことばかりを考えて過ごしてしまいがちですが、「すずらん25号」の編集やフェスタすずらんを通して、「すずらんの会」の職員として、法人全体のことを知り、考えることが必要であるとともに、エリアを超えた職員同士の横の繋がりが大切だと改めて感じました。

(自立支援センター 宮野)